



さりげないスナップ写真のすてきな笑顔のように
群馬の教育や文化の話題を、ふだん着のままで紹介するシリーズ

みどり市 たけのこ保育園



竹のようにしなやかな 身体と心をもった子に

みどり市笠懸町西鹿田にある「たけのこ保育園」（國井富廣園長）の卒園式とそれに先立つリハーサルに招待されました。今や小学生も受験勉強に精を出す時代になってきましたが、学校に入る前の子どもたちはどのような環境の中で育っているのだろうという興味をもって見学させてもらいました。結果は驚きと感動の連続でした。卒園式当日の様子を中心に報告します。

卒園式は子どもの成長を示す場

卒園式は、Ⅰ部とⅡ部で構成されています。
Ⅰ部は、職員・卒園児父母の合唱、卒園証書授与、在園児からの花束贈呈、子どものうた。
Ⅱ部では、木遣り太鼓や縄飛び・荒馬踊り・スキップ・側転といったリズム運動、そして伝統芸能「エイサー」、音楽劇「オキクルミ」といったプログラムが休みなく続きます。

— 第Ⅰ部 —

職員が「ハレルヤ」を高らかに歌うなか、卒園児が入場してきました。職員合唱の「五月のうた」、卒園児父母合唱の「ふるさとのうた」と続きます。

卒園証書を渡す時がきました。担任の先生から呼名された卒園児は左手を高く挙げ、園長から卒園証書を受け取ると、手を高く掲げたまま誇らしげにリズム室を一回りします。



リハーサルで涙を流していた先生は本番では一人ひとりしっかりと呼名していました。

全員が卒園証書を受け取ると、一つ下の子たちがスキップして花束を卒園児たちに渡しにいきます。微笑ましい光景です。

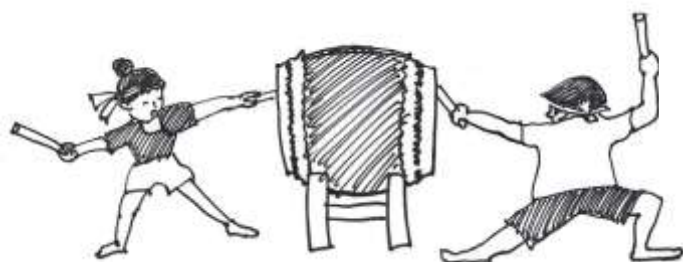
子どもたちの歌が始まりました。顔を自然と上へあげ、「きょうがきた」「春が来たよ」「農夫は朝早くから」の3曲を元気いっぱいに歌います。その歌声は式場の外にも響き渡るほどです。先生たちの歌声も大きかったのですが、子どもたちも負けてはいません。



卒園児たちがスキップで退場、第Ⅰ部が終わりました。

一 真骨頂の第Ⅱ部 一

木遣り太鼓が始まりました。見事なバチさばきが小さな身体を大きく見せています。全ての器官を解放するとはこのことを言うのかと思うほど、全身を使ってひとときも止まることなく動いています。



荒馬の踊り、トンボ、アヒル、倒立ブリッジ、スキップ。側転、縄跳び、おおわし沖縄などのリズム運動を休む間もなく次々と演じていきます。

とても素晴らしいのは、卒園児が演技を行うと、一つ下の子たちがそれに倣って同じように演技を行うことです。「ここまでできるようになったよ」とアピールすることによって、下の子たちは上の子から

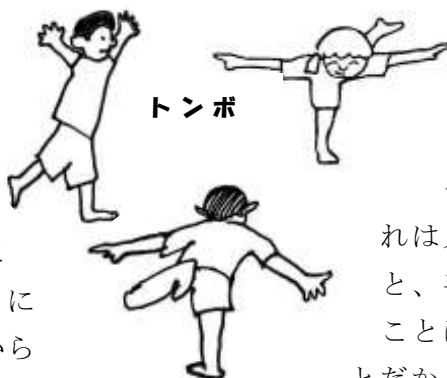


バトンを引き継いでいるかのように思いました。それは次年度のリーダーとして育てていることを見せているかのようなでした。

身体を使ったさまざまなリズム運動の合間にはたくさんの歌が入ります。なかでも「プロメテウスの火」は子どもたちだけではなく、

見ている保護者にも人間の成長とは何かを訴えるものでした。國井園長は、

『プロメテウスの火』は保育の原点」と言います。それは人間が人間として火を使うこと、手を使えるようになるということ、人間が人間らしくなることだからだと言います。



続いて沖縄の伝統芸能「エイサー」が始まりました。先生の奏でる三線と指笛が響くなか、子どもたちは元気に太鼓（パーランク）を打ちながら大きな動きを見せてくれます。



最後はアイヌの伝説をもとに作られた音楽劇「オキクルミ」です。衣装は保護者の手作りで、頭に付けたバンダナには子どもたちが一針一針丹念に縫った刺繍が施されています。

踊りで使われている剣や弓も、子どもたちが小刀を使って手作りしたというので驚きです。

卒園式そのものが、保育園での子どもたちの成長を見事に表現していました。

子育ての原点は、人間としての豊かな感性を培うこと



たけのこ保育園は、1999年、園長の自宅一部を保育室にし、認可外保育園として園児一人から出発しました。徐々に園児も増え、園長宅の傍らに新たに園舎を建てて保育をしてきましたが、2004年に社会福祉法人麦の芽会を設立、認可を受けて現在に至って

います。周辺には田畑が広がり、近くには里山（天神山）がある自然豊かな環境です。地元では、泥んこ遊びや裸足の保育、自然のなかで四季を感じながら保育をしていると評判です。

たけのこ保育園の保育目標・方針は3つあります。

- ① 泥んこ遊び、裸足、薄着の保育を通して丈夫な身体をつくります。
- ② 自然の中で四季を感じながら生活し、豊かな感性を育てます。
- ③ 一人ひとりが大切にされ、仲間とのつながりを大切にし、自分の気持ちを伝え合い、生活する知恵や力をつけます。

國井園長は、「三つ子の魂百までも、と言われてきたとおり、幼児期は人間としての魂を育てるかけがえのない時期。保育（子育て）の原点は人間としての豊かな感性（心と体のコミュニケーション）を培うことです。自然の中で思い切り遊び回り、地域の人たちとかかわりながら生活することがとても大切です。これが、保育者として子育ての仕事を実践してきたなかで、私の根幹にある考えです」と言います。

この保育観の大本には、北海道育ちの國井園長の生い立ちがあります。広々とした大地と自然の中で思い切り遊び、畑作農家の両親の仕事を手伝いながら成長してきました。そのことが自身の保育観に大きく影響したようです。



自然に親しむ活動がいっぱい



1年間の行事予定を見ると、自然に親しむ野外活動がふんだんにあります。

尾瀬のハイキングでは小至仏山に登ります。遠足では足利の石尊山、赤城の鍋割山、桐生の鳴神山、草津の白根山など盛りだくさん。



夏はお泊まりキャンプや高山村の天文台での星の観察、冬はスキー合宿と毎月さまざまな活動が組まれています。この他にも田植えや菜種まき、さつまいも掘り、稲刈りなどの食文化を考える行事や、生き物小屋づくり、宝箱づくり、灯籠づくりなどの工作。

里山への散歩では園児が安全に歩けるようにと、地域の人たちが整備をしてくれるなど、地域が一緒になって見守ってくれているようです。

リハーサルの様子

卒園式の2週間前、リハーサルを見に行った時のことです。

「タンタンタン♪、タンタンタン♪」

何かを叩くにぎやかな音が聞こえてきました。リズム室で行われている竹踊りでした。



竹踊りは、リズムに合わせて開いたり、閉じたりする6本の竹の間を飛び跳ねていくものですが、途中で2拍子になったり3拍子になったりと竹の動きが変化していきます。子どもたちは列をつくって順番を待つ間もリズムをとって、竹と竹の間を上手に飛んでいきます。

なかにはリズムをうまくとれずに立ち止まってしまう子もいました。すると、すかさずともだちが近寄り、手をつないで一緒に飛んでいきました。



広いリズム室

卒園式の会場にもなっていたリズム室は、「大きさにはこだわったんです」と国井園長が言うほど大きな部屋で、奥行き7間（約12.6m）、幅10間（約18m）もあります。ここで子どもたちは卒園式でも披露した竹踊りや布で作った手作りの縄飛びといった運動を日頃に行い、のびのびと身体を動かしています。



よく身体を動かし、強くなった

卒園式で目頭を熱くして子どもたちを見つめていた保護者たちにたけのこ保育園に預けた感想を聞きました。

「裸足保育に共感して預けた。最初は風邪を引いたりして心配もしたが、だんだんと体力も付いて元気に育っていき、預けて良かったと思う。勉強することが特色という保育園もあるけれど、今はこれでもいいと思う」（卒園児の父親）

「運動に関してはとても素晴らしいと思う。子どもたちが元気に遊んでくれると嬉しい」（卒園児の父親）

「自分の息子も裸足で育つ保育園だった。ここも同じなので良かった。運動会では身体をよく動かし、リズムが凄い」（卒園児の祖母）

「とにかく身体を動かしていく保育園。共働きのなのでガツガツ遊ばせてやることもできないので有り難い。うちは女の子二人で、小さく生まれたが元気に育っている。来年は卒園、泣いてしまうだろう」(年中組の父親)



会場には他の保育園の先生方が自主研修で訪れていました。桐生市のある保育園に勤める先生は「たけのこ保育園では、園長をはじめとして全員が一つの方向に取り組んでいる。それはなかなかできることではない。子どもたちはやらされているというのではなく、のびのびと生き生きした姿を見せている。それを引っ張る大人の姿もいい」と言っていました。



今回の取材を通して、人間が人間として育つとはどういう事なのか、とても大切な視点が随所にあったと思います。この冊子のタイトルが示す「育ちと学び」にふさわしい記事になったとしたら幸いです。

《 文責：須田章七郎 ・ 写真提供：新井学 ・ 写真撮影；イラスト：倉林、長谷川 》

ぞつえん おめでとう！



社会福祉法人 麦の芽会 たけのこ保育園

みどり市笠懸町西鹿田21-1 TEL0277-76-2697 FAX0277-76-2783

※園内見学は要予約。事前にお電話でお申し込みください。